（別紙８－２）　認知症対応型共同生活介護事業所外部評価結果公表様式

□はリンク　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 ※ グループホーム　高松

日付　平成 21 年 5 月 22 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員：健康運動指導士
実務経験１０年以上

ホームヘルパー２級
実務経験３年以上

自主評価結果を見る （評価内容と一緒に添付しています。）

評価項目の内容を見る ※

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！） ※

１．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）
（記述式）

グループホーム高松は国道に近く、周辺には戦国時代に築かれた堰堤跡が残り、また、現在も当時と変わらない水田が広がっているため、居室から窓を空けると昔と変わらない季節折々の風が感じとれ、一歩足を過去に踏み入れたのどかな環境の中で、歴史と同調している施設です。

ホームの隣にある介護老人保健施設には、病気の治療を補助するため、一定の訓練を受けたセラピードッグが飼育されており、グループホームにも時々セラピードッグたちが訪れて、昔に酔いしれた入居者を今に引き戻して、入居者の心を和ませています。

管理者は３つのユニットリーダーたちとのコミュニケーションがとれており、信頼して各ユニットの管理を任せています。入居者の中には高齢な方も多くおられますが、居室に閉じこもることもなく、積極的に共有の空間で過ごしていて、トランプを使ったゲーム中にも笑顔で会話を楽しみながら、ほのぼのとした環境と同じように安心して生活しているようです。職員は入居者の良い話し相手になっていて、日々くつろいだ雰囲気作りをしています。

特に改善の余地があると思われる点（記述式）

ユニットごとにユニットリーダーの特色を持っていることが長所となっている反面、ユニット毎の良い点をかえって導入しにくかったり、反省点も改善しにくかったりして、コミュニケーションが十分とれなくなることが懸念される。また、運営推進会議など、広く外部からの参加を求めるなどして、グループホームの活動を地域の人々により一層理解してもらうよう働きかけていくことも大切だと思います。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	「生きがいの探求、生きがいの創造」を理念に掲げ、家庭的で温かく、居心地よく生活できる場所になるよう、入居者や家族と職員との信頼関係の維持に努めている。		

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	職員は入居者の機能低下を防ぐために、一人ひとりの動きを観察しながら外出を促したり、体を動かしたりすることを大切にしている。 また、動物介在療法を行っている介護老人保健施設の協力を得て、入居者とセラピードッグとの交流を図っている。		

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援		○
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	全てをスケジュール化しないで、会話や家事などやりたいことができる仕組みづくりをして入居者一人ひとりの能力に合わせ、日々を過ごしてもらうようにしている。 部屋の中を見られることを気にする入居者にはその人の希望に応じてドアに「のれん」をかけている。また、職員は入居者に断ってから部屋に入るようにし、プライバシー保護に努めている。		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進		○
37	ホーム機能の地域への還元		○
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	月に１回テーマを決めて、職員の研修を行うことによって、ホームは在宅の延長であることを全ての職員が理解し、毎日のスケジュールを決めないで、入居者が自由に過ごすことができるよう努めている。入居者との日々の触れ合いも大切にしている。		

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、県が別に定めるところにより自主評価結果を添付すること。